令和７年度

環 境 報 告 書



国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

目　次

1　理事長挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　国立精神・神経医療研究センターの概要　・・・・　3

3　環境配慮の基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・　5

4　環境配慮の計画と具体的な取り組み　・・・・・・・　5

5　環境配慮の取り組み状況　・・・・・・・・・・・・・　6

（１）エネルギー資源投入量　・・・・・・・・・・・・・　6

（２）紙資源（コピー用紙）購入量　・・・・・・・・・・　9

（３）水資源投入量　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

（４）温室効果ガス排出量　・・・・・・・・・・・・・・・　１１

（５）廃棄物の適正処理　・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

（６）グリーン購入・調達状況　・・・・・・・・・・・・・　１４

（７）その他環境に関する取り組み　・・・・・・・・・・　１５

１　理事長挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

２　国立精神・神経医療研究センターの概要　・・・・　４

３　組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・　５

４　環境配慮の基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・　６

５　環境配慮の計画と具体的な取り組み　・・・・・・・　６

６　環境配慮の取り組み状況　・・・・・・・・・・・・　７

（１）エネルギー資源投入量　・・・・・・・・・・・・　７

（２）紙資源（コピー用紙）購入量　・・・・・・・・・　１０

（３）水資源投入量　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

（４）温室効果ガス排出量　・・・・・・・・・・・・・　１２

（５）廃棄物の適正処理　・・・・・・・・・・・・・・・　１４

（６）グリーン購入・調達状況　・・・・・・・・・・・　１５

（７）その他環境に関する取り組み　・・・・・・・・・　１６

理事長挨拶



当センターは、精神・神経・筋疾患、発達障害の４つの領域の研究開発をミッションとし、精神と神経、臨床と研究を一体化した世界的にもユニークなセンターであり、研究所と病院が密接に連携して、治療の難しい精神・神経疾患などの病気の原因の解明、診断法の確立、新しい治療法の開発、モデルとなる医療の提供、そして精神保健全体の向上に取り組んでおります。

また、センター病院では病気で闘っておられる患者さんが一日も早く病気を克服出来るよう、先端的な医療を提供しております。

環境保全への対策は、日本のみならず 2015 年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」においても課題として挙げられ、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）にも盛り込まれており、全世界的な課題として取り組む必要があります。当センターと致しましても、事業活動を実施するにあたり、本務である脳とこころの健康の維持、増進は勿論、環境に配慮した事業活動を行うことを目的とした環境配慮促進法に基づき、環境配慮の基本方針を定め、省エネルギー、省資源の取り組み、環境物品等の積極的な調達など、環境負荷の低減に取り組んでいるところです。令和８年３月末には、かねてより建設中の研究所新２号館が完成しました。この建物は屋上面並びに外壁面の断熱性能を向上、ルーバーによる日射の制御、節水型衛生器具を採用する等、環境負荷の低減に取り組んでいます。

このたび、令和７年度の当センターの事業活動における取り組み状況を「令和７年度環境報告書」として取りまとめました。

今後とも、環境保全に関する取り組みを一層充実させて参りたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご支援のほど宜しくお願いいたします。

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
理事長　　中 込　和 幸

センター概要

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）概要

名　称：　国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
所在地：　〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1
沿　革：　https://www.ncnp.go.jp/guide/history.html
理事長：　中込　和幸

基本理念

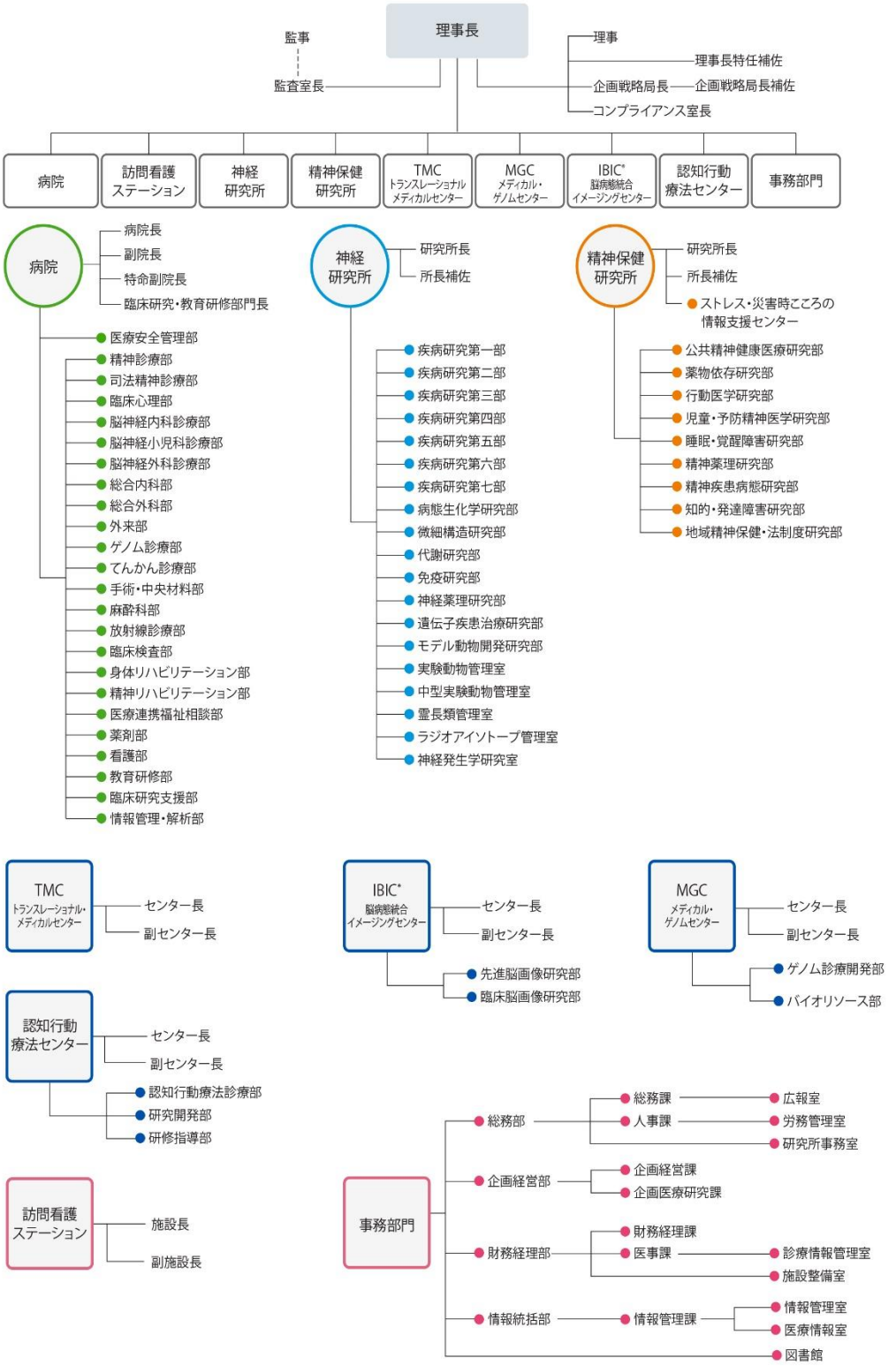
病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

センターマップ



NCNP へのアクセスは、HP の「交通のご案内」をご覧ください。
https://www.ncnp.go.jp/access/index.html

組織図


理事長
監事
監査室長
理事
理事長特任補佐
企画戦略局長
企画戦略局長補佐
コンプライアンス室長
病院
訪問看護ステーション
神経研究所
精神保健研究所
TMC トランスレーショナルメディカルセンター
MGC メディカル・ゲノムセンター
IBIC* 脳病態統合イメージングセンター
認知行動療法センター
事務部門
病院長
副院長
特命副院長
臨床研究・教育研修部門長
医療安全管理部
精神診療部
司法精神診療部
臨床心理部
脳神経内科診療部
脳神経小児科診療部
脳神経外科診療部
総合内科部
総合外科部
外来部
ゲノム診療部
てんかん診療部
手術・中央材料部
麻酔科部
放射線診療部
臨床検査部
身体リハビリテーション部
精神リハビリテーション部
医療連携福祉相談部
薬剤部
看護部
教育研修部
臨床研究支援部
情報管理・解析部
研究所長
所長補佐
疾病研究第一部
疾病研究第二部
疾病研究第三部
疾病研究第四部
疾病研究第五部
疾病研究第六部
疾病研究第七部
病態生化学研究部
微細構造研究部
代謝研究部
免疫研究部
神経薬理研究部
遺伝子疾患治療研究部
モデル動物開発研究部
実験動物管理室
中型実験動物管理室
霊長類管理室
ラジオアイソトープ管理室
神経発生学研究室
研究所長
所長補佐
ストレス・災害時こころの情報支援センター
公共精神健康医療研究部
薬物依存研究部
行動医学研究部
児童・予防精神医学研究部
睡眠・覚醒障害研究部
精神薬理研究部
精神疾患病態研究部
知的・発達障害研究部
地域精神保健・法制度研究部
センター長
副センター長
先進脳画像研究部
臨床脳画像研究部
ゲノム診療開発部
バイオリソース部
認知行動療法診療部
研究開発部
研修指導部
施設長
副施設長
総務部
総務課
人事課
広報室
労務管理室
研究所事務室
企画経営部
企画経営課
企画医療研究課
財務経理部
財務経理課
医事課
診療情報管理室
施設整備室
情報統括部
情報管理課
情報管理室
医療情報室
図書館

環境配慮の基本方針

1. 省エネルギーの推進に努める
2. 地球温暖化対策に努める
3. 省資源化の推進に努める
4. 廃棄物の適正管理･減量化の推進に努める

環境配慮の計画と具体的な取り組み

1　省エネルギー・省資源化を推進し、環境負荷の低減に努めます！

（１）軽装の励行

（２）冷暖房の適温設定、節水の励行

（３）紙資源の節減

（４）コージェネレーションシステムの活用

2　環境物品の調達（グリーン購入）、リサイクルの推進に努めます！

（１）調達物品の環境配慮

（２）廃棄物のリサイクルの推進

3　高効率の設備などの積極的な導入に努めます！

（１）省エネルギー設備の導入

（２）遮熱フィルムの活用

環境配慮の取り組み状況

（１）エネルギー資源投入量

令和７年度のエネルギー資源投入量については、昨年度と比較し消費量は約 10％の削減となりました。今後更なるエネルギー消費の削減に努め、地球温暖化抑制に努めてまいります。

総エネルギー消費量（熱量換算：単位ＧＪ）

	都市ガス	電力	A 重油	ガス LPG
令和 3 年度	129,262	166,974	391	821
令和 4 年度	127,568	166,333	391	839
令和 5 年度	120,573	163,839	381	849
令和 6 年度	129,122	162,694	402	1,207
令和 7 年度	118,439	145,666	389	1,076
対前年比	91.7%	89.5%	96.8%	89.1%

［熱量換算 単位 ＧＪ ギガ･ジュールとは］

使用した各燃料等を国際標準の熱量換算係数を用いて換算後、発熱量１ギガ・ジュールを原油0.0258キロリットルとして換算した、総エネルギー消費量を表す際の発熱量単位。

［換算係数］

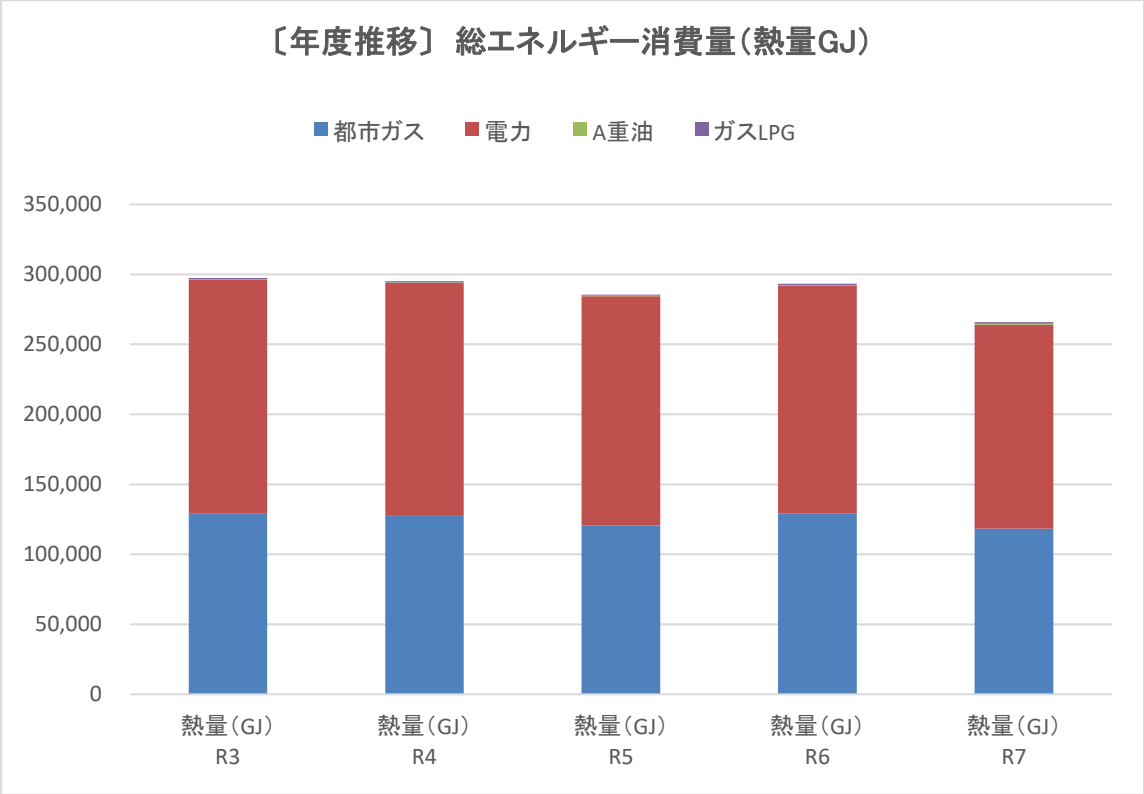
都市ガス・・13A:45GJ/千m^3

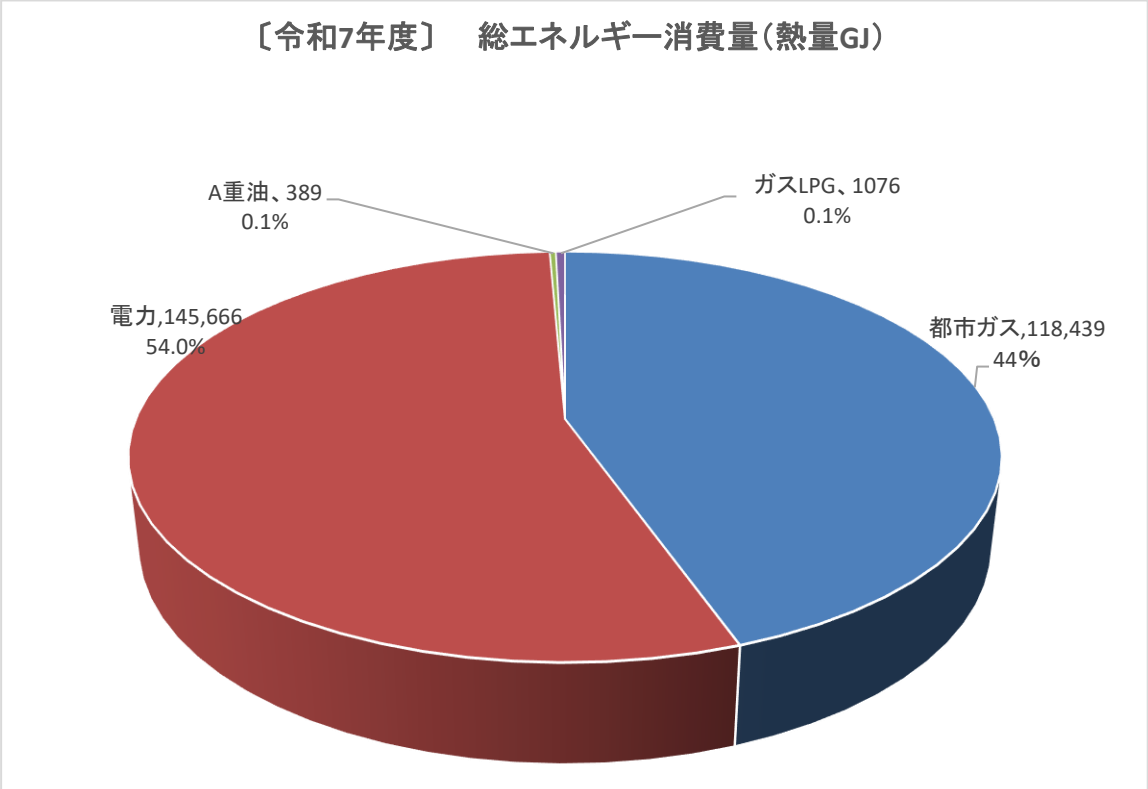
電力　　・・9.97GJ/kwh

Ａ重油　　・・39.10GJ/KL

ガスLPG・・50.80　GJ/千m^3

※電力換算係数については、総電力使用量に対して昼間の換算係数を用いております。


〔年度推移〕 総エネルギー消費量（熱量GJ）
都市ガス
電力
A重油
ガスLPG
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
熱量（GJ）
R3
熱量（GJ）
R4
熱量（GJ）
R5
熱量（GJ）
R6
熱量（GJ）
R7


〔令和7年度〕　総エネルギー消費量（熱量GJ）
A重油、389
0.1%
ガスLPG、1076
0.1%
電力,145,666
54.0%
都市ガス,118,439
44%

（1）各エネルギー消費状況

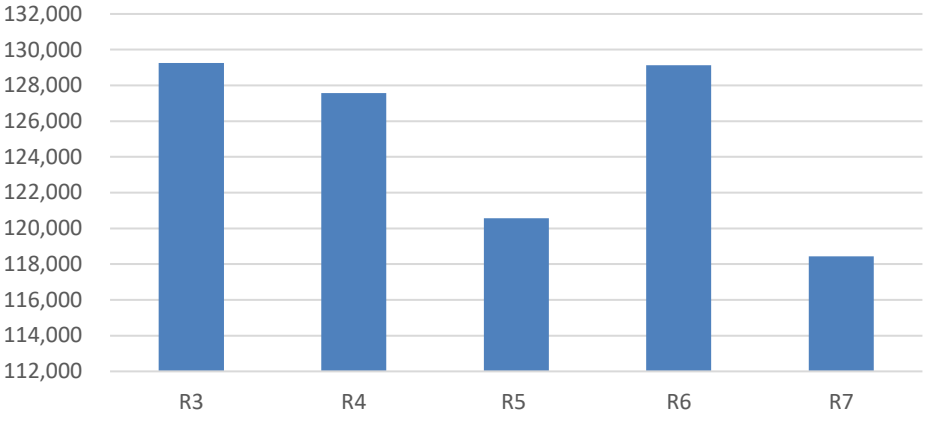


図　都市ガス使用量（㎥）

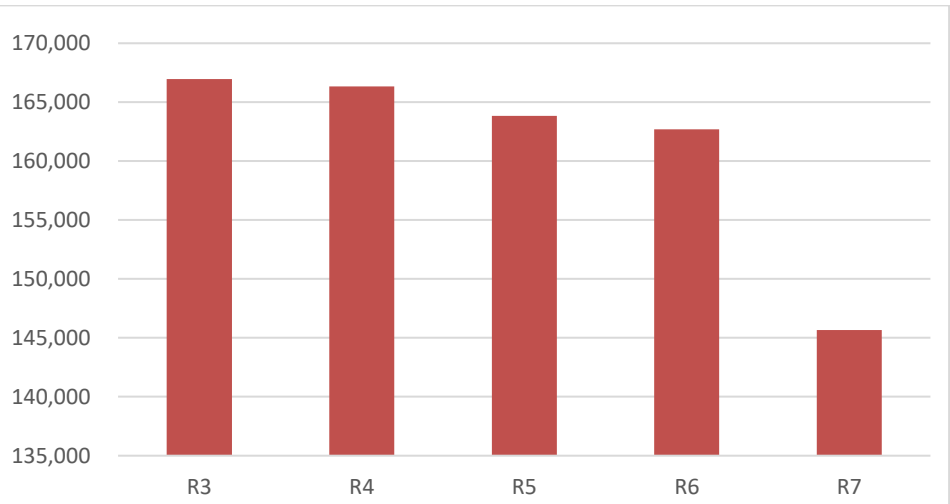


図　電力使用量（千KWh）

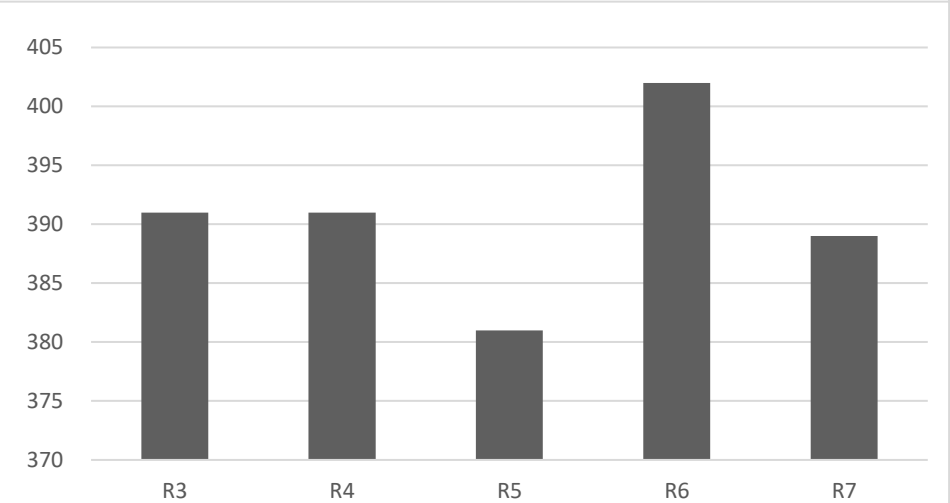


図　A重油使用量（KL）

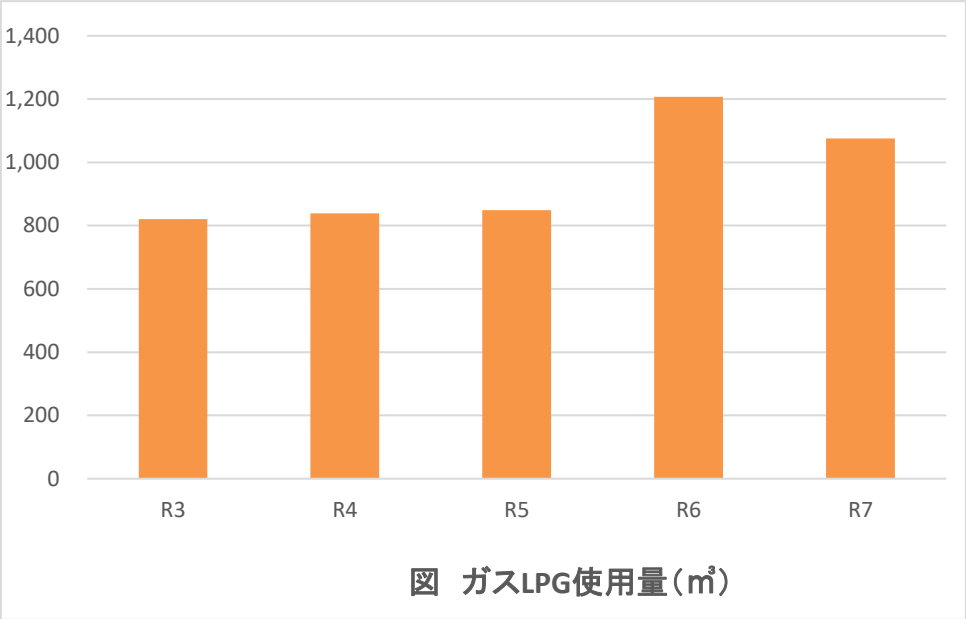


図　ガスLPG使用量（㎥）

（２）紙資源（コピー用紙）購入量

当センターにおいては、限られた紙資源の有効利用や経費削減のため、会議資料等の両面印刷やミスコピー等の再利用を進めるとともに、センター内グループウェア化による電子掲示板等の活用や電子決裁システムの導入によりペーパーレス化を進めてきました。令和７年度からは各種会議においてタブレット端末を活用することによりコピー用紙の節減を図りました。これらの取り組みにより、令和７年度においては紙資源の購入量が前年度比９３．７％（調達重量ベース）となりました。

今後も、環境負荷の低減や費用削減の観点から、積極的なペーパーレス化の推進に取り組み紙資源の購入量等の節減に努めてまいります。

コピー用紙購入量（Ａ４換算）

	令和６年度	令和７年度	対前年度比
調達重量（ｋｇ）	１，８６４．７	１，７４８．８	９３．７％
調達数量（枚）	２，５４４，３４３	２，３９５，５８０	９３．８％

※　上記データは購入量ベースで把握したものであり、実際の使用量だけでなく在庫分も含む。

（３）水資源投入量

当センターにおいては、水資源投入量について令和８年４月の水道法の基準値変更に先がけ、令和７年９月から上水道と井戸水の割合を変更したことにより、上水道（上水・下水）の使用量が増加しました。今後、全体使用量の削減について職員等へ節水を呼びかけるなどして推進します。

※上水及び下水は市水使用量を表し、井戸水には下水量が含まれます。

水資源投入量（単位：m^3）

	上水道		井戸水	総　計
	上　水	下　水		
令和３年度	19,646	19,646	187,671	226,963
令和４年度	32,069	32,069	166,074	230,212
令和５年度	35,998	35,998	177,632	249,628
令和６年度	41,095	41,095	182,394	264,584
令和７年度	86,978	86,978	119,666	293,622
対前年比	211.7%	211.7%	65.6%	111.0%

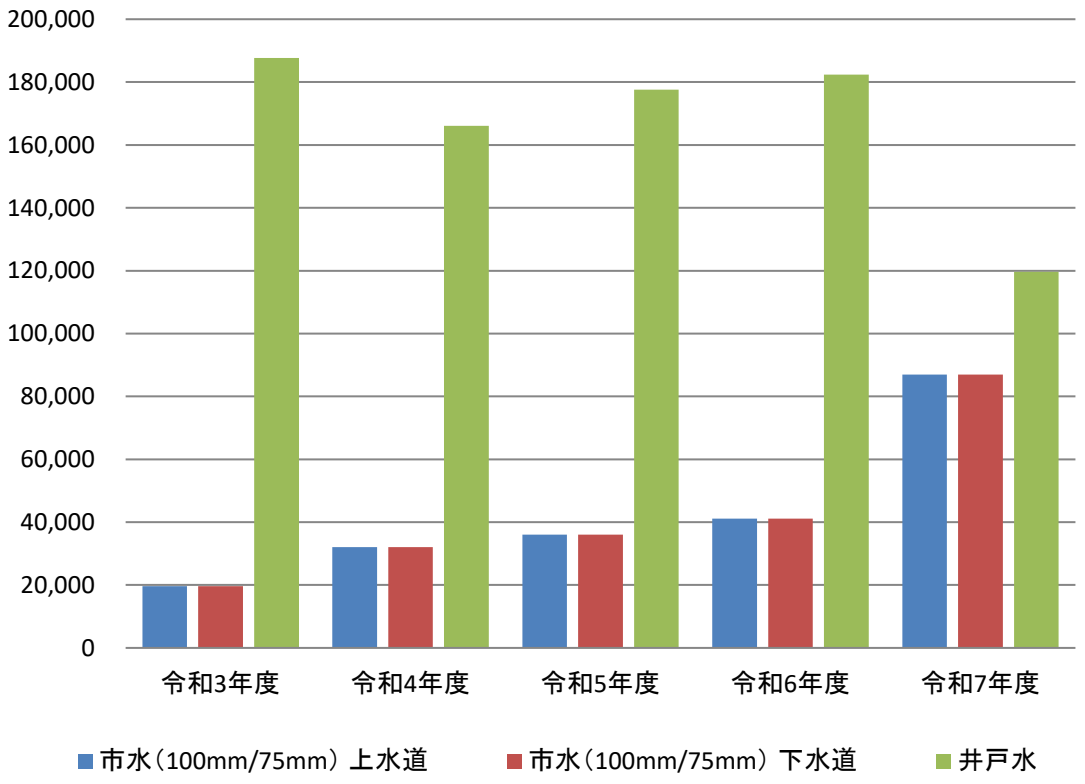


図　上下水道・井戸水使用量[m^3]

（４）温室効果ガス排出量

当センターにおける令和７年度の温室効果ガス排出量は前年比でほぼ同等となりました。

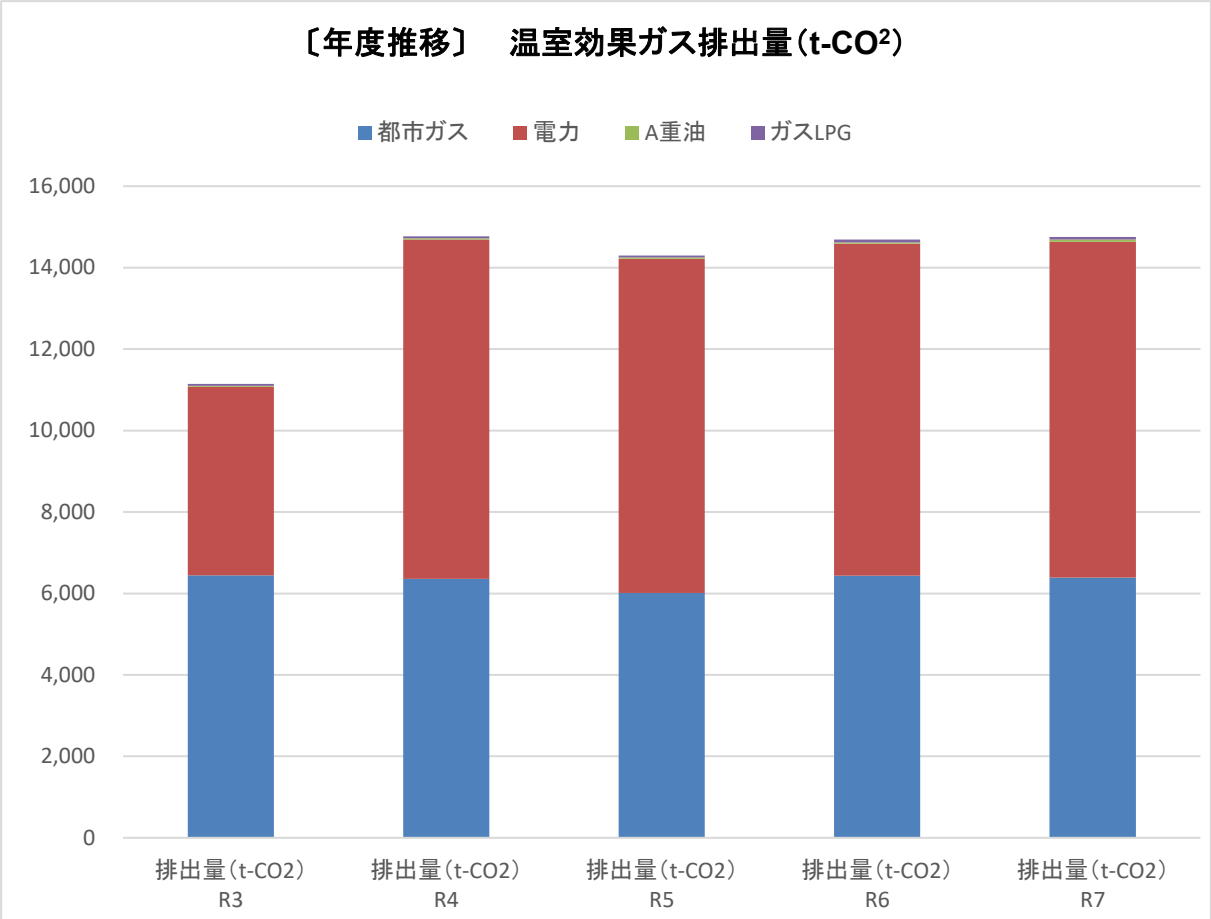
今後も、温室効果ガス排出量の削減に向けて、省エネルギーの推進や設備の効率化などの排出抑制策に継続的に取り組み、地球温暖化の防止と環境負荷の低減に努めてまいります。

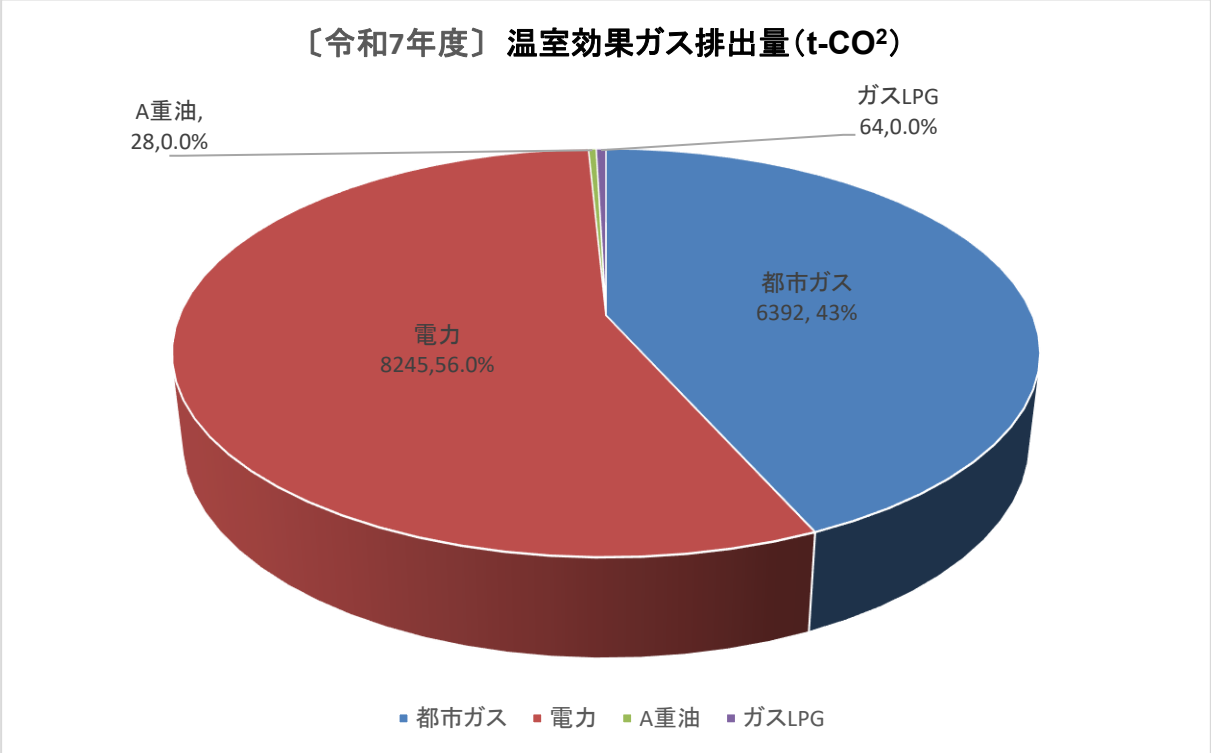
温室効果ガス排出量（排出量換算：単位 t-CO^2）

	都市ガス	電　力	A 重油	ガス LPG	総　計
令和３年度	6,446	4,626	27	48	11,147
令和４年度	6,361	8,333	27	50	14,771
令和５年度	6,013	8,209	26	50	14,298
令和６年度	6,439	8,151	28	71	14,689
令和７年度	6,392	8,245	28	64	14,729
対前年比	99.3%	101.2%	100.0%	90.1%	100.3%

［排出量 単位：t-CO2　ﾄﾝ･ｼｰｵｰﾂｰとは］

各燃料等の使用に伴う二酸化炭素その他の温室効果ガスの排出の量を、排出係数を用いて相当する温室効果を有する二酸化炭素の重量に換算した単位。


〔年度推移〕　温室効果ガス排出量(t-CO2)
都市ガス
電力
A重油
ガスLPG
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
排出量(t-CO2)
R3
排出量(t-CO2)
R4
排出量(t-CO2)
R5
排出量(t-CO2)
R6
排出量(t-CO2)
R7


〔令和7年度〕 温室効果ガス排出量(t-CO2)
A重油,
28,0.0%
ガスLPG
64,0.0%
都市ガス
6392, 43%
電力
8245,56.0%
都市ガス
電力
A重油
ガスLPG

（５）廃棄物の適正処理

廃棄物は事業系ゴミとなるため、一般の家庭から排出される廃棄物の取り扱いとは異なります。廃棄物は大きく一般廃棄物（可燃・不燃ごみ）と産業廃棄物（医療系廃棄物等）に分類されます。

当センターは、医療安全体制を整備するとともに特に感染性廃棄物の搬出・処理の過程において感染事故が発生しないよう努めています。

感染性廃棄物は、他の廃棄物に混入しないよう排出する際に専用のダンボール箱又はポリ容器を使用し、その管理には万全を期しています。



廃棄物排出量（単位:kg）

	一般廃棄物	感染性廃棄物	資源ゴミ	総　計
令和３年度	275,305	77,420	25,935	378,660
令和４年度	250,889	80,939	24,911	356,739
令和５年度	268,362	84,746	28,743	381,851
令和６年度	302,897	89,475	27,409	419,781
令和７年度	350,070	123,030	25,873	498,973
対前年比	115.6%	137.5%	94.4%	118.9%

感染性廃棄物は、各部署から専用のダンボール箱及びポリ容器で搬出され、清掃請負業者によって指定の集積場所に搬入され、集積された廃棄物は、産業廃棄物委託業者が収集運搬・処理を行っております。

その際には、排出量を記載した産業廃棄物管理表（マニュフェスト）を交付し、排出から最終処分までの処理が適正に行われていることを確認しています。
また、分別を徹底することにより、再資源化されるもの（びん・缶、ペットボトル、古紙類）について、廃棄物の再資源化の向上に努めております。

（６）グリーン購入・調達状況

当センターは、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号。以下「グリーン購入法」という。）の趣旨に基づき、環境物品等の調達を推進するため、特定調達品の購入目標値等について「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、積極的に進めています。

令和７年度における環境物品等の調達実績については、同法第８条第１項の規定に基づき、「令和 7 年度環境物品等の調達の実績の概要について」を下記のとおり取りまとめ、ホームページ上に公表するとともに、環境大臣に通知しました。

1　令和７年度の経緯

令和 7 年度については、5 月に「環境物品等の調達の推進を図るための方針」（以下「調達方針」という。）を策定し、これに基づいて環境物品等の調達を推進した。

2　特定調達品目の調達状況

分野	目標値	環境物品等調達品目	目標達成（100%）調達品目	目標達成率
紙類	100%	3 品目	3 品目	100%
文具類	100%	54 品目	54 品目	100%
オフィス家具等	100%	7 品目	7 品目	100%
ＯＡ機器	100%	6 品目	6 品目	100%
家電製品	100%	2 品目	2 品目	100%
災害備蓄用品	100%	1 品目	1 品目	100%
総　計	100%	73 品目	73 品目	100%

3　環境物品等の調達に当たっての配慮の実績

調達方針に基づき、調達する品目に応じて、エコマーク等の既存の情報を活用することにより、判断基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めた。

4　特定調達物品等以外の環境物品等の調達状況

特定調達物品等以外の物品等の調達に当たっては、調達方針に準じて、エコマーク等の認定を受けている製品又はこれと同等の環境物品を調達するように努め

た。

５　当該年度調達実績に関する評価

令和７年度は調達率 100％を達成した。

今後についても、医療サービス及び研究機能等を低下させない範囲内において、グリーン購入法の趣旨に鑑み、引き続き可能な限り環境物品等の調達推進に一層努めることとする。

（７）その他環境に関する取り組み

■　省エネルギーへの取り組みとして、以下の節電アクションを掲げ、職員の意識向上に努めております。

［節電アクション］

・エアコンについて室内温度を夏は２８℃、冬は２０℃を目安に設定
・クールビズ・ウォームビズの実施（通年）
・ドア・窓・ブラインド・カーテンの開閉、エアコン吹出口付近に物を置かないことによる室内のエアコン効率向上
・使用しない部屋の消灯、昼休み時間中の消灯の徹底
・パソコンのスクリーンセーバーなどを解除し、省エネモードの徹底
・離席時のパソコンのフタ締めの徹底
・長時間使用しないパソコンの電源オフの徹底
・プリンター・コピー機の省エネモードの徹底
・職員用エレベーターの一部停止による電力の使用量削減

■　省エネルギー、水資源対策として、高効率な設備の積極的な導入に努めております。

［熱源・電力］

●デマンドエネルギー監視システムの導入

・契約電力を超えないように常時監視し、警報又はデータを分析し職員に情報提供することにより節電意識を向上。

●蛍光灯間引き、高効率照明器具の導入

・照明基準に支障がない範囲で廊下・ＥＬＶホール・屋外照明の間引き、非常階段照明の減光を実施。

・老朽化により照明器具を更新する場合は、出来る限り高効率照明器具を導入。

●人感センサーの導入

・長時間人が居ない廊下・トイレ等に設置することで消灯忘れによる電力を削減。

●遮熱フィルムの導入

・夏の日射による温度上昇を抑制するため、一部ガラス窓に遮熱フィルムの導入。

●ガスコージェネレーションシステムの導入

・常用発電機及び発電による廃熱を利用することにより、節電効果が期待出来る、ガスコージェネレーションシステムの導入（平成 24 年 6 月）。

●低炭素電力の導入

・二酸化炭素排出量の少ない低炭素電力の導入。

［水資源］

●地下水膜ろ過システム導入

・休止状態であった井戸に地下水膜ろ過システムを平成２４年度に導入し、２本の井戸を有効活用して、井戸水の利用促進と上水道使用量の削減及び全体使用量の節水を推進。